

**平成29年度対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無償資金協力
「ブラック・リバー公立高校校舎建築計画」および
「フェア・プロスペクト公立小学校校舎建築・改修計画」贈与契約署名式**

2018年3月9日、山崎大使は、教育・青年・情報省にて行われた、平成29年度対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無償資金協力「ブラック・リバー公立高校校舎建築計画」および「フェア・プロスペクト公立小学校校舎建築・改修計画」の贈与契約署名式に出席しました。

1970年にセント・エリザベス県ブラック・リバー地区に設立されたブラック・リバー公立高校には同県全域から1,704人も生徒が通学しています。しかしながら、生徒数に対して教室数が少ないため、午前7時から午後12時までの第一部、午後12時から午後5時までの第二部に生徒を分けて授業を実施するシフト制を採用しています。シフト制を採用していない高校と比べて、授業時間が短くなってしまうため、数学など主要教科でさえ十分な授業時間を確保できません。

このプロジェクトで166,689米ドルが供与されることにより、同校は4教室と職員室を有する校舎を建築します。4教室の建築により、教室及び授業時間不足に直面する同校の学習環境を改善することが期待されています。

1904年にポートランド県フェア・プロスペクト地区に設立されたフェア・プロスペクト公立小学校は、雨水被害に悩まされています。現在6年生が使用している木造の校舎はシロアリや風雨による損傷が進んでおり、雨が降ると雨漏りや、天井および壁の隙間から入り込む雨水によって教室は浸水し、同校舎内で授業が続けられなくなります。図書室など他の教室に移動して授業を継続しますが、移動や中断で雨天時は授業時間が損なわれています。3,4,5年生用の校舎は窓の多くが壊れており、雨天時には雨が教室内部に入り込みます。教室が広いので教室移動せずに授業は続行できるものの、授業に集中できる環境ではありません。同県で算数教師として活躍する青年海外協力隊古田隊員が、同校の深刻な状況を知り、同校に草の根無償資金への応募を勧めました。古田隊員による学校への助言・サポートもあり、このプロジェクトは採択に至りました。

このプロジェクトで90,906米ドルが供与されることにより、同校は2教室を有する校舎を建設し、既存の校舎の窓を修復します。新校舎及び修復校舎では、児童が天候に関わらず授業に集中することができるようになることが期待されています。

当日の署名式へは、ルエル・リード教育・青年・情報大臣、ブラック・リバー

地区選出議員のフロイド・グリーン教育・青年・情報省担当国務大臣、マーシャ・フィリップス＝ドーキンス国家教育基金事務局長を始めとする教育省・国家教育基金関係者、報道機関など約30名が出席しました。

リード教育・青年・情報大臣は、ブラック・リバー公立高校もフェア・プロスペクト公立小学校も支援が必要な状況であり、日本政府と在ジャマイカ日本大使館のジャマイカの教育に対する関心に感謝している、と述べました。

山崎大使は、供与される設備によって両校の教育環境は必ず向上すると信じていると述べ、日本政府は引き続き無償／有償資金協力、技術協力、そして JICA ボランティア派遣を通して、ジャマイカの更なる発展のために、ジャマイカ政府と協力していきたいと述べました。



JICA ジャマイカ事務所飛田所長、NET ハリス支援者・パートナーシップ管理部門長、NET ヴァズ局長、グリーン国務大臣、山崎大使、リード教育・青年・情報大臣、ベイリー＝ウォルターズフェア・プロスペクト公立小学校校長、同校他ポートランド県で算数教師として活動する古田隊員と、フェア・プロスペクト公立小学校の児童



NET ハリス部門長、ヴァズ局長、グリーン大臣、本使、フェロンブラック・リバー公立高校校長代理、リード大臣、ガスリーブブラック・リバー公立高校理事長



契約書に署名をする本使、ガスリー理事長、リード大臣



フェア・プロスペクト公立小学校との署名済み契約書を交換する本使とリード大臣



リード教育・青年・情報大臣



ブラック・リバー公立高校フェロン校長による開式の挨拶



挨拶する本使



日本からの援助に謝意を述べるフェアプロスペクト公立小学校ベリリー=ウォルターズ校長



(左) 詩を披露するフェア・プロスペクト公立小学校の児童